

## トビタテ選考体験記（14期・理系、複合・融合系人材コース）

学部・研究科：人間発達環境学研究所

学年：修士1年

（2021年時点）

---

### 【情報収集】

#### 留学計画書の作り方

- ・「トビタテ 留学計画書」と検索し、トビタテ生の計画書を読んだ。

#### 二次審査

・二次審査には個人面接とグループ審査がある。どちらも検索すると、対策が書かれたブログがたくさんあり、それを参考にした。（私は「丸メガネのひとりごと」というブログを参考にした。）留学目的や留学先が異なるので、最終的には1月の留学計画を自分で掘り下げていくようになる。以下、ブログに載っている方法以外で私がとった方法を挙げる。

・4月下旬にLINEのオープンチャットで「トビタテ」と検索すると、すでに14期用のチャットがあり、そこでzoomを週に何回か開き、お互いの留学計画書（4分間で発表するスライド）を発表し、どこがわかりにくいのか、当日何が聞かれそうか（発表の時間、留学の目的が明確かどうか）など指摘しあった。また、個人面接で何が聞かれそうかもグループで練習した。さらに、グループでお互いの留学計画を聞いたあと、「よりよい留学にするためには」とグループでディスカッションするので、その練習もした。選考の直前（ゴールデンウィーク）になるとオープンチャットの人数は200人を超えていたので、コースが同じ人でzoomの部屋を開き、毎晩のように練習した。また、より仲良くなり、練習を重ねるためにTwitterでトビタテ用のアカウントをつくり、同じようにスライドの発表をしあう人を探した。最終的に私は10回以上このようにlineとtwitterでつながった人と練習し、何を聞かれて大丈夫なように、また、スライドも見やすいように工夫した。

・キャリアセンターの方にも5人、私のスライドが見やすいかどうか、内容が目的と合っているか、発表時間を4分におさめるように話すスピードなどを添削していただいた。この練習が本番の助けになった。

### 【当日の振り返り】

#### 個人面接

・通常なら対面で面接が行われるため、留学テーマや留学する国に沿った服で面接にのぞみ、大きいスケッチブックを持って、留学計画をそれに書くが、今年はオンライン(harutaka)のため状況が異なった。私は留学する国の国旗のシールを頬に貼り、背景に留学する都市のポストカードを貼り、面接官にアピールした。

・スケッチブックを画面越しに見せること、グループ審査用に準備していたスライドを画面共有することは個人面接で禁止された

・個人面接時間 15分

・面接官：60代男性 1人

・聞かれたこと：（まず頬に貼ったシールと背景のポストカードに面接官が気づいてくれて「〇〇に行くんですね。私も5年前に1年くらい住んでいたんですよ。いいところですよ。」と和やかに始まり、終わりまでずっと話しやすいかった。

留学目的を簡単（1分）で説明、トビタテの魅力とは、トビタテをどう発信したいか、トビタテを知ったきっかけ、私の高校からトビタテで留学した人がいるか、トビタテの奨学金でないといけない理由などが質問された。

#### グループ審査

・ひとグループ6人

・発表の順番は事前にメールされ、zoomの名前のところも審査する側が初めから順番がわかる

ように表示する設定にされていた。

- ・審査する人（私のグループは 30 代男性 1 人）
- ・他のメンバーは同じコースの人がほとんど
- ・一人が 4 分のパワーポイントのプレゼンを終わると 2 分間の質疑応答があり、審査員は 1 問質問した。画面共有可能
- ・全員のプレゼンが終わると、それぞれがお互いの留学計画についてもっと知りたいことを聞く質疑応答の時間が 15 分
- ・このあとグループディスカッション 20 分
- ・事前にメールで pdf が添付され、お題「よりよい留学にするためには」とお互い話し合ったことを記入するための空欄の表がこの pdf に書かれていた。私のグループでは一人がランダムにグループの他のメンバーでそれぞれの留学準備の良いと思ったところを言いき、最後に 3 つの意見に絞った。最後に審査員に 1 分で発表する人は、話し合ってからディスカッションを始めるときに決めた。
- ・グループの人全員が編集できるように、また、審査員も含め、全員が資料をみることができるように、google document を用いた。こうすることで、書記という役割をなくし、全員が発言し、だれかひとりが意見しているときに気づいた人がメモをとることができるようにした。

#### 【アドバイス】

- ・自分の留学計画が一貫性を持って話せているか、また、スライドもわかりやすいかどうか、キャリアセンターの方や LINE、Twitter で出会った人など、家族以外の人にもたくさんチェックしてもらおうのが大切だとわかった。特に LINE のオープンチャット、Twitter で出会った人とお互いプレゼンすると、自分のクセや直した方がいいところがよくわかった。例えばスライドの構成の仕方、話すスピード、話すときのトーン、滑舌など。また、たくさんの人と留学計画をシェアすることで、このテーマでここに行くのかなど、視野が広がり、仲良くなった。
- ・1 次審査のための書類は、一貫性があるかと目立っているかどうかで決まったと思った。私は背景をすべて写真（18 枚ほど）で埋め尽くし、その上にテキストボックスで字を書いた。
- ・私は、神戸大学はもちろん、他大学の先輩トビタテ生を誰も知らず、2 次審査対策講座なるものをトビタテの方が開催していたが参加できなかったのので、LINE のオープンチャット、Twitter を駆使して、人前で練習する機会を増やした。